

## 第3章 東住吉区の特徴

### 1 地域特性

東住吉区は大阪市の南部に位置し、区域の東西は、約 2.8 km、南北は約 6.4 km で、面積は 9.75 km<sup>2</sup>、大阪市内で 8 番目の大きさを持ちます。東は平野区、西は阿倍野区・住吉区、北は生野区に接し、南は大和川を挟んで松原市に接しています。区域の約 90% は閑静な住宅地域で、区内には、JR 阪和線、近鉄南大阪線、地下鉄谷町線の駅があり、駅周辺は、商業地域として発展しています。

### 2 人的特性

区の人口は、令和 2 年の国勢調査の結果では、総数 127,849 人、世帯数は 62,025 世帯となっています。

平成 27 年の国勢調査では、総数 126,299 人、世帯数は 57,797 世帯となっており、平成 27 年の国勢調査の結果より、増加しています。

年齢別人口

区 分	人 数	総人口に対する割合
総 人 口	127,849 人	
0～14 歳	14,088 人	11.0%
15～64 歳	73,906 人	57.8%
65 歳以上	36,491 人	28.6%
不 詳	3,364 人	2.6%

(令和 2 年国勢調査集計)

独居高齢者人口

区 分	人 数	総人口に対する割合
60 歳以上	12,464 人	9.7%
65 歳以上	10,846 人	8.5%

(令和 2 年国勢調査集計)



- \* 年齢別人口をみると 65 歳以上が総人口の約 4 人に 1 人を占めています。
- \* また、15 歳未満は総人口の約 1 割となっています。
- \* 独居高齢者が総人口の約 1 割を占めています。

小学校区別人口及び世帯数

小学校区名	人 数	世帯数
東住吉区	127,849 人	62,025 世帯
育 和	13,260 人	6,183 世帯
桑 津	14,945 人	7,136 世帯
北 田 辺	9,426 人	4,599 世帯
今 川	11,858 人	5,481 世帯
田 辺	10,357 人	5,039 世帯
南 田 辺	12,417 人	5,429 世帯
東 田 辺	6,884 人	3,500 世帯
南 百 済	10,015 人	5,268 世帯
湯 里	5,575 人	2,641 世帯
鷹 合	7,757 人	3,743 世帯
矢 田 北	4,740 人	2,543 世帯
矢 田 東	7,832 人	3,740 世帯
矢 田	6,005 人	3,513 世帯
矢 田 西	6,778 人	3,210 世帯

(令和 2 年国勢調査小学校区別集計)



区内の 14 の小学校区別人口及び世帯数の構成をみると、区の北部に位置する育和・桑津小学校区で人口が多いことがわかります。

夜間人口及び昼間人口

夜間人口	127,849 人
流入人口	20,748 人
流出人口	33,861 人
流出超過人口	13,113 人
昼間人口	114,736 人
昼夜間人口比率	89.7 %

(令和 2 年国勢調査集計)



昼間時に人口が少なくなるため、昼間に災害が発生した場合、人的不足が考えられます。

### 3 物的特性

区内には、老朽化した木造住宅が密集している地域があり、密度は大阪市24区の中で4番目に多くなっています。このような木造住宅の密集地は、防災面や住環境面で様々な課題があります。

具体的には、火災が発生した際の延焼や地震時の家屋倒壊の危険が高いといえます。

市内の昭和55年以前木造住宅密度（上位10区）

順位	区	総面積 (km <sup>2</sup> )	昭和55年以前 木造住宅数 (戸)	昭和55年以前 木造住宅密度 (戸/km <sup>2</sup> )
1	生野区	8.37	11,920	1,424
2	西成区	7.37	6,380	866
3	阿倍野区	5.98	4,690	784
4	東住吉区	9.75	7,430	762
5	住吉区	9.40	6,780	721
6	旭区	6.32	4,300	680
7	東成区	4.54	2,920	643
8	城東区	8.38	4,240	506
9	福島区	4.67	2,200	471
10	淀川区	12.64	5,790	458

※ 住宅・土地統計調査（令和5年）より



東住吉区は、昭和55年以前木造住宅密度が市内で4位となっており、火災や地震倒壊による被害の怖さが懸念されます。

## 建物の木造と非木造

	木 造（戸）				非木造（戸）			
	総数	昭和45年 以前	昭和46年 ～昭和55年	昭和56年 以降	総数	昭和45年 以前	昭和46年 ～昭和55年	昭和56年 以降
東住吉区	19,180	4,720	2,710	11,750	36,290	760	3,310	32,220

（令和5年住宅・土地統計調査）



昭和55年以前の古い木造建築が木造建築の約4割を占めていることがわかります。一方で、昭和56年以降に非木造の建築物も多く建てられていることがわかります。